



福島幼稚園の取り組み ワクワク、ドキドキ、 たのしい福島幼稚園

福島幼稚園
園長 島田由美子
園児 33人

「教育のひろば」とは
各学校や幼稚園の特色ある取り組みを紹介するコーナーです。編集委員は、教育委員会の広報委員会に所属する各学校や幼稚園の教員です。

外遊び大好き！
(年長・つばめ組)

この時期の福島幼稚園の園庭にはお花がたくさん咲いています。あるとき、支援員さんが摘んでいた花を見つけた女の子たちは、きれいな花にうっとりし、飾ることを思いつきました。空き容器をかわいく飾りつけ、毎日お花の水替えを行い、きれいなお花の鑑賞を楽しんでいます。



「かわいく飾りつけよう！」



「何かいるかな〜？」

に夢中です。何か動いているものを見つければ興味津々。小さな虫も逃さず捕まえ、じっくり観察します。手のひらの上で動くダンゴムシの感触を友だちと楽しむ姿は微笑ましい光景です。
楽しく遊んだ後は、はりきって片付けます。パトロール隊の子どもは片付け忘れのチェックをして「異常なし！」と報告してくれます。
何事も全力で表現したり、友だちと気持ちを共有したりする姿に、日々成長を感じます。

サフランの球根の水栽培
(年中・かなり組)

青色の容器に、小さな球根。球根には、芽が出る方と根が出るくぼんだ方があり、どちらを下にするかの話を聞き、子どもたちは球根が下に落ちないようにセット。水を入れに行き、「水はここまで入れるの？」など、初めての経験に、期待と不安が入り混じっている表情です。



「水入れたよ〜！」



「花咲くかな〜」

「最後は黒い袋をかけてセット終了。」「なんで袋をかけるの？」「芽が出るからだよ。」そんな声も聞こえてきましたが、芽と根の違いはまだ分からない様子です。「みんなのご飯と同じように、サフランは水をご飯にしているんだよ。」と伝えると、思い出し、なるほどと納得。

その日の降園準備の時に、サフランの様子を見た子は「先生、まだ何も出てこないよ。」と、教えてくれました。いつ花が咲くかわくわくしながら楽しみにしている子どもたちです。



提言

大切にしたいこと



福島幼稚園
園長 島田 由美子

4月より福島幼稚園でお世話になっております。着任早々2カ月におよぶ臨時休園となり、これまでに経験したことのない長い自粛の時間を過ごしました。6月の再スタート以降は、模索しながら生活や行事の見直しを行ってきました。徐々に軌道に乗り、今では安定した園生活が復活しています。

以前、ニュースで異業種の企業がマスクを製造販売したことに大変驚かされ、発想の転換が大事であることに気付かされました。これからの時代を生きる子どもたちには、発想の転換、創意工夫を凝らし想像もできない災害や窮地に直面した時、それ乗り越える柔軟で強い心を持った人になってほしいと願っております。

さて、幼稚園は遊びを通して幼児の発達に合った環境を整え成長を促すことを保育の基本としています。コロナ禍において、人とかかりづらくなっているところですが、子どもたちには、自分を理解してくれる先生や同世代の友だちと生活をともにする経験の場が何よりの環境と考えます。そして、目に見えない幼児の内面・心を育てること、樹木に例えるなら土の下に隠れる根っこ部分をしっかりと育てるといふことを大切に、教師は、子どもたちを支える温かい存在となるよう努めていきたいと思っております。

初めてのミニ運動会
(年少・ひよこ組)



「せんせいは見てていいよ〜！」

今年度はコロナ禍の中、規模を縮小しての運動会開催となりました。年長組が走っているのを見て「やってみたい！」と遊びから始め、ドキドキしながら練習がスタートしました。練習を進めていく中で体を動かす楽しさや音楽に合わせ友だちと一緒に踊る楽しさを味わい、動きもわかるようになって、ひよこ組でも「先生やらなくていいよ」と担任の見本がなくても、はりきって踊れるようになるなど成長を見せてくれた子どもたちです。また、準備でも自分の持ち物に手を加え、競技で使うバッグに自由にビニールテープを貼り付け



好きなテープを貼って「マイバッグのかんせい〜」

ました。はさみを慎重に使いながら色々な長さに切って真剣に取り組みました。

年中組・年長組のクラスから聞こえてくる「えいえいおー！」の掛け声に興味をもち、ひよこ組でも子どもたちの中から自然と声が出るようになりました。とっても気に入ったようで、今でも「明日は〇〇するよ。」の担任の言葉に「がんばるぞーえいえいおー！」と元気な掛け声を響かせています。

運動会を経験してひと回り大きくなったひよこ組の子どもたちです！